

「研究紀要」発刊に寄せて

山梨県総合教育センター
所長 廣瀬 浩次

令和2年度山梨県総合教育センター「研究紀要」が発刊の運びとなりました。センター研究に御協力いただいた研究協力校、御指導、御支援をいただいた関係機関をはじめ、関係各位に心より感謝を申し上げます。

本センターは、「学校教育を支援する確かな情報発信源としての総合教育センター」を基本方針とし、教員の資質向上、学校教育における課題解決に向け、研修、研究、相談、開発及び普及啓発に関わる業務を推進しております。研究分野においては、山梨教育の「知の拠点」としてシンクタンク機能を充実させ、学校教育を支援することが大きな役割であると考えており、実践的な学校支援が求められる中、研究協力校の協力のもと、指導主事がチームで行う「研究領域ごとの協同研究」を推進しております。一主事一研究から移行し三年目となりますが、学校の現状に即した今日的教育課題の解決とともに、授業改善を推進し、教職員の資質能力の向上を図るべく進めているところです。

「資質・能力の育成に向けた学校教育への総合的な支援」。これが今年度センター研究の主題です。「知の拠点としてのシンクタンク機能の充実」、「研究協力校と連携し実践的な学校支援を基盤とした協同研究の推進」、「外部機関との連携を取り入れた協同研究の推進」を基本方針とし、「授業・学校づくり」「情報教育」「教育相談」「特別支援教育」の四つの研究領域において、研究協力校八校の御協力のもと、七つの研究を進めてまいりました。各研究内容につきましては、各頁を御覧いただきたいと思っております。

センター研究の意義は、学校が抱えている課題の解決や目指す児童生徒の育成に向けて学校現場の視点から先生方と指導主事が協働で研究を行い、より良い取組や実践を追求していくこと、その成果を汎用化できる実証的な研究としていくことにあります。予測困難な時代、また、新型コロナウイルス感染症により、一層先行き不透明となる中、新たな時代に対応する学校教育への総合的な支援には、学校現場の現状とニーズに応じた効果的取組等を具体的に還元できるよう研究協力校と連携し、さらに研究を推進することが必要であると考えます。そして、その取組こそが子どもたちの成長に繋がっていくものと確信しております。学校現場の先生方におかれましては、改めてセンター研究の意義を御理解いただき、引き続き、御協力をいただけますようお願いいたします。

結びに、コロナ禍において、さまざまな対応に追われるなか、校内研究を推進するとともにセンター研究に御協力いただきました研究協力校の皆様、専門的立場から御指導をいただきました山梨大学の先生方をはじめとする関係機関の皆様にご改めまして御礼を申し上げます。この研究紀要が十分に活用され、県内各学校の教育がさらに充実していくことを願います。